

## えっ！乳がんって遺伝するの

米女優アンジェリーナ・ジョリーの告白で一躍注目を集めた乳がんの遺伝子検査と予防的な乳房の切除。いったい、乳がん発症にどのくらい遺伝は関与するのでしょうか？

乳がんは環境因子と遺伝因子がかけ合わさって起こります。環境因子には閉経後の肥満や妊娠出産・授乳歴、初経・閉経の年齢、飲酒などさまざまな因子があります。一方、遺伝因子とは、乳がんになりやすい体質で、顔かたちが親に似るように子へ伝わることがあります。

乳がんの5～10%が遺伝性といわれますが、遺伝性乳がん(正しくは遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と呼びます)の多くでBRCA1やBRCA2という遺伝子に生まれつきの異常(変異)がみられます。こうした遺伝子に変異があると、乳がんだけでなく卵巣がんも発症の危険性が高くなります。国内での年間乳がん発生件数は約6万人ですから、少なく見積もっても3000人は遺伝性の乳がんということになります。こうした家系では、BRCA1やBRCA2遺伝子の遺伝子変異が親から子に50%の確率で伝わります。

乳がんの患者さんで、若年の発症(40歳以下)、両側あるいは多発の乳がん、男性乳がん、トリプルネガティブ乳がん(ホルモン受容体、HER2が両方とも陰性)、卵巣がんの既往、近親者に乳がん(ことに若年)や卵巣がんの方がいる、などのいずれかに当てはまる方は、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の可能性を考慮する必要があります。

BRCA1/2変異の有無は採血で検査できますが、その検査結果の影響は大きいので実際の遺伝子検査前後には専門家による遺伝カウンセリングが必須です。また、BRCA1/2遺伝子検査は保険診療で行うことはできません。自由診療というかたちでならば、遺伝カウンセリングの体制が整った施設でのみ行うことは可能です。

BRCA1/2遺伝子変異が見つかった場合の対応として、予防的な乳房切除や卵巣・卵管切除が話題となり、わが国においても一部の施設で体制が整っていますが、これも保険診療では認められておらず、あくまで選択肢がひとつ増えたと理解してください。

遺伝カウンセリングは現時点では大阪府下でも数えるほどの施設でしか受け付けていませんが当院でも遺伝カウンセリング相談窓口の開設を目指して準備が進行中です



詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。

市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

